

山崎 美弥子(やまざき みやこ)
平成17年度3次隊 看護師 サモア

「家族のかたち」

私はサモアでの仕事は、在宅での看護を行うことです。具体的には、子供の予防接種から成人の健康チェック、お年寄りの介護など。サモアに来て、一年半が過ぎようとしています。これまでずっと感じてきたことがありました。それは、家族のあり方の違いです。

お年寄りの終末期の患者の周りには、必ず家族が近くにいます。幼い曾孫がベッドの上によじのぼってきたり、孫が祖父母のお世話をしていたりする光景が見られます。仕切りがなく部屋中を見渡せるサモアの家のつくりが、日本とは違うことも関係しているのかもしれませんが、サモアでは患者と家族の距離が日本よりも近いように感じます。もうすぐ命が消えてしまいそうな患者のそばにはいつも家族が近くにいることが、私には印象的でした。

また、予防注射のため患者宅に訪問した時、その日だけは仕事を途中で抜けだして、子供の注射に付き添う父親に出会いました。日本人の感覚なら、仕事中に職場を抜けたら周りの人の迷惑になると考えますが、家族を第一に優先して考えるのがサモアの人々。

家族が第一、というのは行事でも同じです。

サモアの結婚式に参加した時のこと。結婚する二人の幸せを心から祝うため、家族や親戚が一堂に集まり、食事の用意から教会の飾りつけ、椅子や机の用意など、自分たちですべての準備をしていました。何かの行事を行う際、業者に頼めば準備が整う何かと便利な日本では、家族が集まり手間暇かけて行事に取り組むことが少なくなっているのではないのでしょうか。

最近私は近所の教会へ毎週日曜日、サモア人の同僚の家族とともに行くようになりました。その教会行事でも、サモアらしい家族のあり方が見えてきます。

その教会には赤ん坊からお年寄りまでいろんな年代の人が集まってきます。ずっと座っていられずうろうろ歩きだす落ち着かない子供、それを叱る母親と父親。また、子供でも幼い兄弟の面倒をみて、赤ん坊を抱いてあやします。そしてお年寄りのそばには必ず孫がいます。そんな微笑ましい家族の光景で特に私が大好きなのは、大きな体格をした親の肩に、小さな赤ちゃんの顔をちょこんとのせて歩く姿です。

何の根拠もありませんが、肌と肌を合わせて赤ん坊の体温を肌で感じることや、子供でも赤ん坊の世話をすることで、自然に命の大切さや命を守ることの責任感を、体で感じてとっていきのではないのでしょうか。

日々勉強や仕事に追われ大切なものを見失いがちな日本からサモアに来て、実際には目で見えないものですが、毎日の食事、大切な人が幸せであってほしいと願う心、感謝すること、体や心で感じていくことの大切さを考えさせられています。



面倒みのいいおねえちゃん



高校生のお兄ちゃんが面倒をみる。



バスの中で母親が子供を抱く姿。



終末期の祖母の世話をみている孫二人。